農地利用最適化へ本格活動始動

舞鶴市農業委員会で「地区別会議」が発足

今年、新体制となった府内の農業委員会のトップを切り、舞鶴市農業委員会（谷口和会長）が、委員の地域活動の拠点となる「地区別会議」を発足させた。

担当地域の課題検討し 農地の受け皿作り推進

地区別会議では、地区の課題を明確にし、できることから着手していくこと、定期的に開催していくことを確認

地区別会議は、委員が集まり、まず担当地域の現状と課題を検討し、今後の活動を具体化していくための組織で、京都府農業会議では全ての委員会での設置を提案している。

新しい農業委員会制度では、農業委員会の最も重要な使命を、担い手への農地集積・集約、遊休農地の発生防止・再生、新規参入の促進などを進めて各地域・集落にふさわしい農地利用を誘導する「農地利用の最適化の推進」としている。

これを受けて、9月22日、東地区で初会合が開かれ、農業委員、最適化推進委員13人で作る東地区会議が発足した。

初会合では、東地区の委員の正・副代表を選出した後、現在、取り組まれている遊休農地調査の事後の対応について、話し合われた。

また6地区ごとに担当委員が分かれ、次回の会合までにそれぞれの地区の課題を洗い出し、持ち寄ることを申し合わせた。

東地区代表の松岡秀雄農業委員は「地域の農地を任せる担い手像を模索しなければならないが、経営面や地域の合意など難しい課題が多い。今、明確な答えはないが、まず、〝できることは何か〟話し合いたい」と今後の活動について語る。